



第24号 平成14年(2002)12月25日発行
 発行所 東京旭川会 〒104-0061
 東京都中央区銀座3-9-4
 文成ビル3F
 竹原法律事務所内
 TEL・FAX03-3546-7339
 編集 東京旭川会広報委員会

会場もあらたに、期待高まる さまざまな試み。

師走も間近な11月28日、都庁前のホテル「セントクリリアハイアット東京」で、「第26回東京旭川会 総会・懇親会」が開催された。来賓・随行者21名、会員99名、計120名が参加。当会幹事の夫人たち4名の協力も得て、午後8時、会は終了した。

街はクリスマスのイルミネーションで華やいでいた。人々はせわしげに家路を急ぎ、その一角だけは不況を感じさせないにぎやかさがあった。

午後6時開場の1時間も前から会員たちは集まりはじめた。広いロビーでくつろぎ、旧知と語り合っている。互いの肩をたたきあい、再会を喜び合っている人もいる。

会場の「クリスタルホール」は364㎡(約100坪強)。1000余名の客を迎えるには十分の広さ

である。入口を入ると目に付くのは、郷土品と旭川ラーメンのコナー。中央のテーブルには和食、洋食、中華の料理がところ狭しと並んでいる。

食卓を取り囲むように7卓の丸テーブルが設置され、壁際には椅子もたくさん並べられている。年長者に対する配慮であろう。

午後6時、司会を務める尾崎靖亮幹事の「おぼんでございまして」の一声とともに総会は始まった。

挨拶のなかで尾崎幹事から「今朝旭川に電話をしたら、すでに積雪は23cm、気温はマイナス3度



・人気のあった郷土品コーナーと会場風景

ということでした」との報告があり、故郷と東京との距離は一気に縮まった。

議長には、会則にのっとり竹原茂

雄会長が選出され、議案審議に入った。小柳武二事務局長から、「平成13年度事業報告並びに決算報告」および「平成14年度事業計画



並びに「予算案」についての報告があり、植木宏昌、花輪元治両監事からは決算に伴う監査報告がされ、異議なしの声とともに議案審議は終了した。

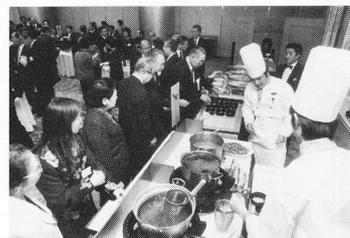
ときを置かず、加藤桂子幹事の司会により懇親会が開宴された。市長を先頭に21名の来賓が入場し、大きな拍手のなか席に着く。

竹原会長の挨拶を皮切りになごやかな宴が始まった。「八木前会長急逝のあとを受け、皆さんの助けを得ながら会長職を務めてまいりました。この一年間、人の情けのありがたさを感じました」と心情を吐露し、「東京旭川会は年々会員が減少していますが、何とか会員を増やしたい。旭川という共通の話題を通して、新たな出会いが生まれるようにと願っています」と述べた。

11月10日に市長選を終えたばかりの菅原功一市長は、今回で3期目を迎える。市長は選挙戦についても触れ「次点と僅差できびしい結果だった。心臓が痛くなる思いをした」と皆を笑わせた。過去にないほど早い積雪で「18日の初登庁の日に雪が降った」と語った。さらに全国に注

目されている旭山動物園について触れ「マスコミにも取り上げられて、問い合わせが殺到しています。多摩動物園や上野動物園、東京都庁からも見学に来られました」と旭川の新しい顔をPRした。

次いで来賓が紹介され、高丸修旭川商工会議所会頭の乾杯の音頭とともに団らんの幕は切れて落された。



ビールやワイン、ウイスキーなどのグラスを片手に語り合う人、椅子に腰かけ、料理を楽しむ人、さまざまな笑顔の輪が広がった。旭川ラーメンのコナーには早くも人が並んでいる。「まさに、行列のできるラーメン店だな」一人が発した冗談に笑いがはじける。ホテルのシェフがつくるそばからコーン入りの醤油ラーメンがはけていく。

隣の特産品コーナーでは、旭川のジャガイモやカボチャを使ったサラダやオムレツ、グラタンなどが並ぶ。いずれもシェフが考案したメニューだという。ここにも人が集まって、いつもながらの人氣であった。

会場内には海産物の佐賀商店も出店している。談笑の合間に毛ガニやタラコを買い込んで宅配を依頼している人もいる。

会場が次第に活気づいてきたころ、司会は松原愛幹事に変わり、水元やよいさんの歌謡ショーが始まった。持ち歌の『酒場すずめ』を皮切りに『北海ソラン節』など6曲が披露された。水元さんは民謡で内閣総理大臣賞を受賞したこともあるという。



熱気が最高潮に達したところ、安井規雄幹事の司会により抽選会が催された。当選番号が張りのある声で読み上げられ、会場はいやが上にも盛り上がる。協賛各社から提供された賞品が次々と手渡され、空くじなしの抽選会であった。

締めは中島嗣郎旭川市議会副議長による万歳三唱である。万歳と拍手のなか会は終了し、出席者は米やラーメンなどが入った土産袋を手に分けた。

外は木枯らしが吹き、枯れ葉が舞っていた。雪の積もらない冬を迎えて数十年が過ぎる。

第26回東京旭川会 総会・懇親会出席者名簿

(順不同・敬称略)

旭川市長・菅原功一、旭川市議会副議長・中島嗣郎、同事務局庶務課庶務係主査・富田康文、旭川商工会議所会頭・高丸修、同総務部総務係長・古川善裕、旭川観光協会会長・稲村健蔵、北海道上川支庁長・吉田洋一、旭川空港ビル株式会社社長・藤澤貞一、旭川市助役・和嶋昌幸、商工観光部産業振興課主幹・野村斉、企画財政部秘書課主幹・片岡保彦、企画財政部秘書課長補佐・小野田実、商工観光部産業振興課主幹・和田英邦、企画財政部秘書課・浅利豪

(社)北海道倶楽部調査役・座光寺昭典、北海道ふるさと会連合会会長・小山昌志、北海道新聞社東京支社編集局長・杉江良之、(株)ダン

ケジャパン東京営業所所長・山本勝也、同課長・大谷寿美子、サッポロビール(株)営業推進部次長・藤田修、合同酒精(株)秘書室長・秋田悠紀夫
国会議員
衆議院議員・佐々木秀典
祝電
関西旭川会会長・豊澤敬一郎、参議院議員・小川勝也

会員
秋田薫子、浅野義亮、荒井克典、飯泉好之、伊塚清、伊集院實、板垣ゆたか、伊東喜久子、今村謙一、岩垂由紀子、岩淵清司、海老澤美智子、植木宏昌、大島英一、大城栄子、大竹龍雄、大玉勝政、大野武夫、大屋道夫、岡部公司、尾崎靖亮、小椋宗長、織田典子、片桐雅彰、加藤桂子、加藤文哉、河西

長・小山昌志、北海道新聞社東京支社編集局長・杉江良之、(株)ダン

靖亮、小椋宗長、織田典子、片桐雅彰、加藤桂子、加藤文哉、河西

平成13年度・事務局日誌

(平成13年9月1日～平成14年8月31日)

- 平成13年 9月9日・八木祐四郎会長 心不全で急逝(72歳)
- 9月11日・会計 準備打ち合せ
- 9月28日・総会 準備打ち合せ
- 10月11日・第1回幹事会
- 10月13日・確認打ち合せ
- 10月18日・第25回総会・懇親会開催
- 10月26日・第1回広報委員会
- 12月12日・第2回広報委員会
- 12月25日・第3回広報委員会、「ななかまど」発行
- 平成14年 1月19日・北海道ふるさと会連合会 新年交礼会
- 1月28日・北2回幹事会 新年交礼会
- 2月7日・北海道ふるさと会連合会代表者会議
- 2月16日・3月8日・事務局関係書類引き継ぎ完了
- 3月17日・全日本綱引き大会応援
- 3月25日・第3回幹事会
- 6月5日・親睦ゴルフ同好会開催
- 6月13日・郷土訪問の旅案内状発送
- 7月24日・1回総会準備委員会
- 8月10日・センターハイアット東京と打ち合せ



- 春美、河原惟臣、河村尚之、神部泰、喜多美佐子、北村武宏、黒崎弘、窪田敬昭、桑本平八、木幡功、小柳武二、斉藤弘明、島田嘉明、島田ミエ子、島田実、島田瑞子、直原綾子、小路美知子、白倉伸也、鈴木孝、須藤智恵子、曾我部倭文子、高橋英治、高橋岡二、高橋照美、高橋文子、高橋正夫、高宮行男、武田陽子、竹原茂雄、田中幹夫、田原勝司、寺田英子、土井磨智子、中村泰敏、名知公士、西木戸孝夫、西田育子、西館利子、西村明、沼形英男、野作雅彰、萩井栄秀、花輪元治、原公朗、坂東勝利、坂東幸子、引地康博、平澤民義、広野貴之、平本信男、福原博子、古島誠一、細谷弘治、本郷文子、本田真知子、本間敏弘、牧野哲雄、牧野百合子、松島島、松田勇三、松原愛、南栄二、水留英昭、宮森信之、森畑輪布子、安井規雄、山原正博、横山秀夫、吉崎与一、吉田稚俊、米山睦子

協賛・協力

- 旭川市長
- 旭川市議会議長
- 旭川商工会議所
- (社)旭川観光協会
- (財)道北地域地場産業振興センター
- 旭川グランドホテル
- 旭川パレスホテル
- ホテルクレッセント旭川
- 全日本空輸(株)東京支店
- (株)JALセールス
- (男山)(株)
- (株)ササキエ芸
- センチユリーハイアット東京
- サッポロビール(株)
- (ニッカウイスキー)(株)
- 藤原製麺(株)
- (株)セーキ
- 佐賀商店
- (有)本間不動産
- (株)旭ダンケ東京営業所
- 合同酒精(株)
- 今野醸造(株)
- (株)大心堂雷おこし
- 毎日新聞社
- 池田町東京事務所

市長のあいさつ 時代の荒波を越えて

旭川市長 菅原 功一

皆様には、日頃から郷土旭川の発展の為に格別のご支援とご協力を賜り心から厚くお礼を申し上げます。

去る11月28日の総会・

懇親会では、懐かしい皆様のお顔を拝見し、市政についての貴重なご助言や、いつまでもふるさと旭川を思い愛されるあたたかい心に接し、大変うれしく有意義なひと時を過ごさせていただきました。ありがとうございます。

私は首都圏のこうした素晴らしい「ふるさと会」と強い絆で結ばれておりますことを誇りに思っております。また、八木前会長が亡くなられた後、竹原会長が一生懸命に会の発展のためにご尽力なされている姿を拝見し、心から敬意を表する次第であります。

さて私はこのたびの市長選挙で3期目を当選さ



せていただきました。私は市長に就任して以来、この旭川をより発展させるために市民と共に手を携え、うるおいや心の豊かさを実感できる質の高いまちづくりに全力を尽くしてまいりましたが、一歩ずつではあります。着実にその成果をあげることができました。

我が国の経済は、いまだに景気回復の兆しを見せず、企業倒産や失業者の増加など、多くの人々が将来に対する不安を増大させてきております。こういう時代であるからこそ、今何が必要かを真剣に考え、将来の展望を切り開きながら時代の荒波を乗り越えていかなければなりません。

私は3期目のスタートに当たり、市政の目的は市民の幸せの実現であるという

ことを改めて強く認識し、熱意あふれる多くの市民と力を合わせ、市民がほのぼのと安心して暮らせる安心都市の実現に向けて全力を傾注してまいります。決意であります。

旭川は例年のない早い雪を迎えました。この冬には、44回目となる冬まつりや、八木前会長のご尽力により実現した全日本学生スキー選手権大会、そして国際バーサースキー大会の名称を改めバーサーペット・ジャパンを開催するなど、国内外に旭川の名を高める大きなイベントの成功に向けて市民ぐるみの取り組みが進められています。

竹原会長をはじめ会員の皆様には、ふるさと旭川の発展のために今後一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末筆ではありますが、旭川を愛する皆様の益々のご健勝とご活躍を心から祈念申し上げます。

アンケートに見る会の現状

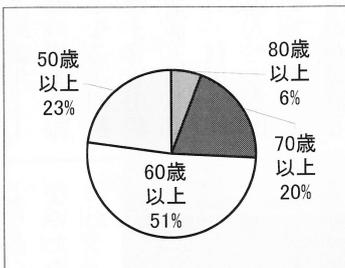
(99名中回答35名)

東京旭川会をより良い会にするため、初めて会員の声をアンケートしてみました。出席者99名中アンケートに協力いただいた方は35名。男女比は74%が男性だった。

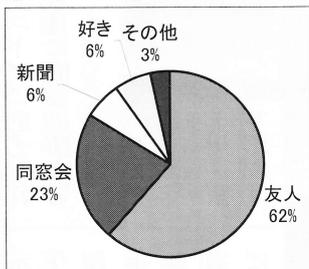
懇親会費・年会費は「今のまま」が87%だが、退職後の60歳代の会員の中には、会費が高く友人が出席できないという声も。会場は初めての「このホテルがいい」が66%と高く、会員は「変化」にも対応している。

料理については満足が進められています。旭川ラーメンコーナー、旭川のジャガイモやカボチャを使ったシェフ考案の料理が好評だったようだ。

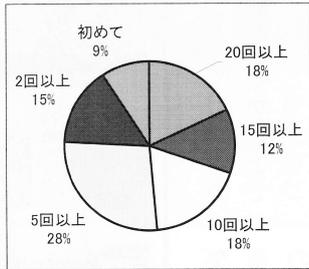
●年齢



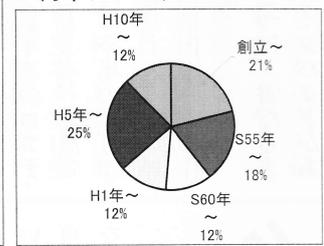
●入会の動機



●出席されたのは何回目ですか

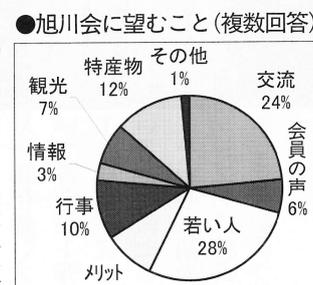


●東京旭川会に入会されたのは、何年くらいですか

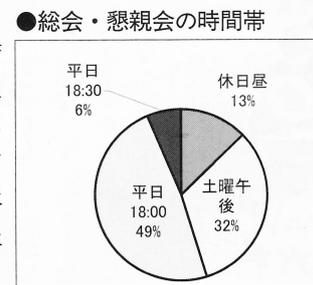


前記の三つのグラフでわかることは、会の高齢化が進んでいること。40～50歳代の若手をいかに増やし、出席した人が続けて出席したくなるような仕組みと魅力をいかに作るかが課題。

●旭川会に望むこと(複数回答)
会に望むことの第一位は35名中19名が挙げた若い人の参加。会の発展の為にそれが最も大切と感じていることがわかる。次に参加した人がもっと交流できるように工夫して欲しいが16名。初めての方でも話し合え、交流できるようなキッカケ作りが望まれている。



●総会・懇親会の時間帯
時間帯は土日派と平日派が相半ばの状況。会員を増やす為にどう設定するかが課題となる。



同窓会からの紹介が23%あり、高校の同窓会から組織的に若手を動員する方法が必要か。

八木祐四郎 前会長の一周忌

早いもので、八木前会長が逝去されてから一年余が過ぎる。去る9月8日(日)、午後12時から東京プリンスホテル・鳳凰の間において、一周忌が執り行われた。

大広間の中央に設えられた祭壇に一人ひとりが白い花を手向け、その後、会食に臨んだ。

堤義明JOC(日本オリンピック委員会)名誉会長、田中幹夫東京美装興業(株)取締役副会長、菅原功一旭川市長から生前の功績をたたえる挨拶があった。各テーブルでは思い出ばなしが飛び交い、前会長の熱血漢ぶり、スケールの大きな人柄などが、話題にのぼった。

当日の出席者は約500名。JOC(日本オリンピック委員会)、全日本スキー連盟、全日本学生スキー連盟、桜門スキー倶



楽部(日大OB)、新宿ライオンズクラブ、東京美装興業社員など、生前の活躍を偲ばせる各方面からの参列となった。

当幹事会からも竹原会長以下16名が出席。桑本平八前事務局長とともに思い出を語り合った。

前会長は、昭和61年、故平岡敏男会長(元毎日新聞社長)の後を受けて二代目の会長として就任。以来、亡くなるまでの15年間を当会の発展のために尽くした。それだけに、古くからの会員のなかには、「東京旭川会のシンボルが失われた」という声も多い。残された我々は遺志を受け継ぎ、より良い会の発展に務めることが、前会長へのせめてもの供養となる。

最後に、ご子息の八木秀記東京美装興業(株)代表取締役社長から謝辞があり、14時、会は終了した。

道北観光に新情報基地誕生。旭川市と大雪・道北圏の観光情報の収集と提供の拠点となる「旭川観光情報センター」がJR旭川駅東隣のHBC(北海道放送)旭川放送局一階にオープン。利用者は国内観光ばかりか外国人への案内にも好調な出足を見せている。

このセンターは旭川市が設置し、旭川観光協会に業務委託。シーズン中(6月9月)は職員二人、オフシーズン(10月5月)は一人常駐させ、観光施設や宿泊施設、交通機関などの案内を行い、観光ボランティアも同センターを拠点に活動している。市はこれまで、旭川駅舎内に観光案内所を設置していたが、手狭で

旭川観光情報センターがオープン

より多くの観光ニーズに答えられないため昨年6月に開設に踏み切った。



センターには、上川・宗谷地方は

もちろん、離島やオホーツク沿岸の広域情報を映像を交えて紹介。旭川特産の家具・木工品や地場産品も展



示、観光案内は年々増加傾向にあり、平成8年の2万2000件から4万件に急増している。また、年々増えている台湾、中国人観光客に対応するため、両国の通訳案内案内役も配置している。上川管内に宿泊した平成13年度の外国人客数は約7万6400人で、前年比24%増。国別では台湾が5万6000人と最も多く、次いで香港が1万1100人と続いている。情報センターを中心に観光ネットワークが広がっている。

旭川市のキャッチとロゴが決定

旭川市では、このまの魅力をみつけ、自信と愛着を持って全国に旭川のよさを発信するため、平成12年から旭川イメージアップ・キャンペーンを展開しています。

平成13年のキャッチフレーズ公募で1007点の応募があり、選考された3点の中から市民投票で選ばれた市

のキャッチフレーズが『あ、雪の匂い』(作者:石本さやかさん)でした。

このキャッチフレーズのロゴデザインを募集したところ、49点の応募がありました。今年の2月28日に公開で審査が行われ、その結果、旭川市在住の植田準さんの作品が選ばれました。

入選理由のひとつは、雪だるまの雰囲気がとてもインパクトがあり、見た人に「えっ、何これ?」というような驚きを与えるよう

な、楽しさと可能性を秘めている、とのことでした。旭川出身の私たちにとっても、なつかしい雪を感じさせ、なじみそうな可愛いイメージキャラクターになっていると思います。

・公募により選ばれたキャッチとロゴ

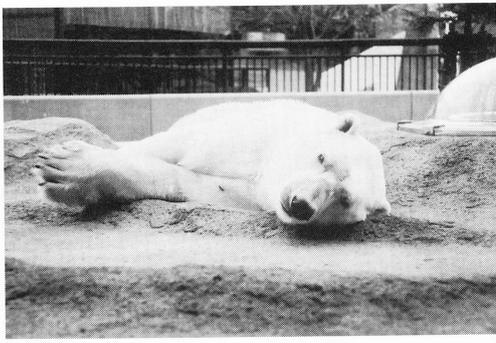


全国に知名度高まる 旭山動物園 「ほっきょくぐま館」もオープン

日本最北の旭山動物園に新しい目玉——「ほっきょくぐま館」が9月21日オープンした。白い巨体がダンスするように泳ぐ姿を見ようと毎週末、テーマパークさながらの賑わいを見せている。

同園の開園は昭和42年だが、「野生動物の能力をありのままに見せたい」と平成8年からリニューアルに乗り出した。「ほっきょくぐま館」をはじめ、「ペンギン館」、「オランウータン舎」など新感覚の動物舎が並ぶ。

今年、北極ぐまは新しい仲間を迎え計4頭。長さ17m、深さ2・5mの大水槽。放牧場が二カ所あり、二頭ずつで生活する。水槽では体重3〜400キログラムの巨体が泳ぐ。



・左側の半円形の窓から、北極ぐまが間近に見える

ぐ。優雅にスイスイ泳ぐ姿がガラス越しに観察できる他、岩場に設置された半円形の窓からは、歩く北極ぐまに大接近できるなど、まさに壮観の一言。

「ペンギン館」では3種類のペンギン(ジェンツ、フンボルト、キング)が飼育され、いずれも繁殖に成功。かわいらしいヒナや水中トンネルから見るとペンギンの泳ぐ姿にも人気が集まっている。

また、オランウータンにロープを伝って自由に空中散歩をさせるなど、全国でも類をみない試みが人気を呼び、道内はもとより道外からの入園者が著しく増加、週末には1万人強を記録している。

今年の入園者総数は過去最多を数え、60万8000人。11月3日からの冬季営業分も含めると、その数はさらに伸びると期待されている。

大野 武夫 郷土訪問の旅 旭山動物園で 時の経つのを忘れて



昨年は郷土訪問の参加人数が予定に達せず、やむなく中止になりましたが、今年は竹原会長、浅野旭川市東京事務所長のご尽力により25名が参加し、郷土訪問の旅を実施することができました。

9月3日の朝、天候にもめぐまれ、羽田空港を1時間ほど遅

ホテルでは歓迎昼食会が開かれ、はじめに菅原旭川市長の温かみのある歓迎のご挨拶をいただき、乾杯の後、一人ひとりがユーモアのある旭川の想い出を話しながら、自己紹介をしました。1時間ほどの楽しい昼食会を過ごし、竹原会長のお礼のご挨拶で終了しました。午後からは参加希望者が旭山動物園へ案内

していただき、園長の説明を受けながら動物園を見ていると、時間の経過を忘れるくらい楽しいひとときでした。旭山動物園はすべての面ですばらしいので、全国から関

係者が大勢見学に来られるそうです。すばらしい動物園をあとにして旭川市役所へ戻り、全体行動は終了し解散しました。

希望者は夜の三六街で遅くまで旭川市東京事務所のOBの方たちと旧交を深め、大変なつかしく語り合い、時間が経つのも忘れてい



たようです。

翌日の4日からは自由行動で、それぞれ指定された5日か6日のどちらかの日に、旭川空港より楽しかった郷土をあとにして、羽田空港に帰ってきました。

私は家内と二人で4、5、6日と滞在し、北海道の屋根、大雪山・旭岳(2290m)の頂上をめざし、登山をしました。風と霧と寒さで大変苦労しましたが、山の雄大さと紅葉にすっかり感動し、下山後は秘湯の旭岳温泉、天人峡温泉、白金温泉をめぐり、楽しんでまいりました。今回の旅行も、旭川市役所と旭川市東京事務所の皆さんに大変お世話になりました。

買物公園・7条緑道野外彫刻再編成案まとまる

北都・旭川のシンボルとして全国に知られる国内初の常設歩行者天国「買物公園」がオープンして今年6月、30周年を迎えた。また、これに歩調を合わせ、買物公園などに配置されている市民に身近かな芸術作品群・野外彫刻の再編成案も具体化した。

買物公園は、JR旭川駅前から8条通りにかけて南北1キロの商店街。ここに大型店や商業ビル、一般商店など約200軒が並ぶ。かつては4条通以北が国道、以南は道道が通るアーケード街だった。

「道」における人間性の回復。昭和38年に全国最年少の37歳で旭川市長となった五十嵐広三さん(元内閣官房長官)の「道路を市民に開放したい」という突拍子もないアイデアが誕生のきっかけだった。構想は翌年の市議会で発表されたが、大方が「何を馬鹿なことを」といった反応。しかし、当時の商店街は中心部の空洞化、郊外や札幌への買物客流出が重なって危機感を募らせていた。当初、乗り気でなかった商店街もやがて構想賛成に傾き、44年には警察から夏祭り12日間限定で車両通行止め許可を取り実験を行った。商店街では手製の花壇や遊具などを配置、旭山動物園からチンパンジーまで、動員した。その結果、

家族連れなど93万人もの人出があつて大にぎわひした。実験成功は3年後の構想実現の決め手となつた。

平和通が「公園」に変身したのは47年6月1日。総工費は6000万円。市と商店街が折半、彫刻など2000万円分は地元企業の寄付で賄われた。買物公園完成は全国の自治体や商店街の注目を集め、



・リニューアルして賑わう買物公園

完成後5年間は視察団が殺到した。こうした流れを経て、10年余の論議が続いた買物公園のリニューアル工事が平成10年から始まった。紆余曲折があつたが、リニューアルは地元商店街の長年の悲願でもあつた。幅20mの路面両側に4mずつのロードヒーティング、中央部分にイベントゾーンなどが新たに設置された。当初15億円とされた事業費は二倍の32億円近くに膨

らんだ。

一方、このリニューアル工事に伴つて浮上したのが買物公園内に配置されて



いる野外彫刻の移転問題だ。市は有識者や地元商店街、市民で成る検討委員会を設置、平成14年3月にはそのシンボリック存在の彫刻「手」を4条通左から8条通右への移設を柱とする最終案をまとめている。

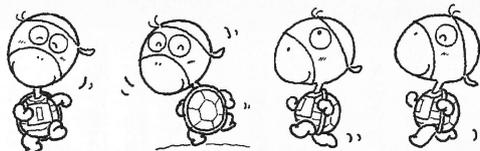
旭川市は昔から「彫刻のまち」として知られる。その背景にあるのは、近代彫刻に大きな足跡を残した旭川ゆかりの彫刻家・中原悌二郎の存在だ。市では、本人の作品をはじめ、彼を顕彰するために創設された「中原悌二郎賞」の受賞作家の作品などを買物公園などに設置、周囲の環境や景観と調和することでより美しい都市空間を形成している。

「手」は噴水と一体になっているが、これまでは水深が深かったので、親しみを感じられるように浅くし、噴水の周囲に木材や自然石など、通りと調和する素材を使用する。30年前、商店街や市、市民が一体となって全国に先駆けて実現させた買物公園も、今では名実ともに「旭川の顔」に変身した。

北海道方言辞典 その④

いいふりこぎのランナー

雄規 規規
安井 安井
文 文
イラスト イラスト



2002年10月14日(体育の日)、旭川マラソン大会が開催された。Aは大会に参加しようと旭川駅に降り立った。タクシートの運転手は女性であった。

あるとこかい。今日マラソン大会があるべさ
A 「そこに行くんです」
B 「なんぼくらい走るんさ」
A 「2000人を超えるぞです」
B 「お客さんが出場? ハーフなんかい」
A 「いや、フルです」
B 「フルはこわいしょ」

(コースは、川べりや林の中を走る)
A 「熊でも出るんですか」
B 「いくら何でも熊は出んよ」
A 「こわいという言葉は、どういう意味ですか」
B 「北海道でこわいというのは、疲れるということだべさ。熊が出るんなら、いつも、じよっぴんかっこおかんくまるよ」
A 「じよっぴんって?」
B 「しんぱり棒さ」
A 「しぱる棒ですか?」
B 「違う違う。戸か開かないようにする棒さ」
こんな会話の中、
B 「お客さん、北海道の生まれこじよ」
A 「えっ」
B 「イントネーション。それそれ、それでわかるんよ」
A 「わかりました?」
B 「わかる、わかる。このいいふりこぎ」
A はあずましくない気持ちのままタクシードを支払い、いちもくさんに競技場へ走る。「これは、ウォーミングアップさ」。まだ、いいふりをこいでいる。こんなことがあつたが、こわい、こわいと言いがら、A はなんとか完走をし、故郷を大いに満喫した。

旭川橋ものがたり 「忠別橋」編

かつて、アイヌの人達は忠別川と美瑛川が合流して石狩川に注ぐあたりを「チユク・ペツ・プト」と呼んでいたという。「プト」は川や沼の出入口の意味だが、「チユク・ペツ」の意味は不明で、「チユク・ペツ」や「チウ・ペツ」とする説もある。いずれにしろ、この忠別が「旭川」の地名の由来になっていることは後述する。

この忠別川に最初に橋が架かったのは明治24年(1891)に逆上る。忠別川・美瑛川の合流点より70m下流のほぼ現在の位置に、橋長27m、幅員4・5mの吊り橋(通称・釣橋)と橋長32m、幅員4・5mの陸橋(通称・神楽橋)が架設された。同時に、美瑛川にも長さ約65m、幅が約4mの板橋「美瑛」。

現在の忠別橋(写真/旭川市中央図書館所蔵)



橋(現両神橋)もできた。

総工費は、神楽橋と美瑛橋の両橋合わせて5000円、明治24年6月に着工してわずか4カ月後の9月に竣工している。この二つの橋が旭川における初めての橋らしい橋であり、当時は人々に「兄弟橋」とも呼ばれていたという。

忠別橋は、大正2年(1913)に吊橋から木橋の桁橋に架け換えられたが、多くの住民には相変わらず「釣橋」の名で親しまれ、当時の繁華街・釣橋通を形成していた。現在の宮下通1・2丁目町内会は、現在も「釣橋通親交会」と称しているが、一世に近い歴史を経て今なお当時の名残を今に伝えている。

その当時は、この釣橋を中心に現在の曙方面から徐々に民家や施設などが移りつつあった。釣橋ができる前年の明治23年に空知集治監囚徒が引き揚げた跡地に開所した大谷派説教所が明治36年(1895)には宮下通3丁目に移り、さらにその2年後に「釣橋通」に旭川布教所として移転、今日の旭川別院の基礎を作った。

この吊橋はその後、昭和4年(1929)に当時の上川郡神楽村と旭川市が経費折半で架換えが行われ、さらに昭和30年(1955)10月に忠別橋は永久橋(三代目)。そして、昭和60年(1985)秋に旭川初の彫刻橋(四代目)として完

成を見たのは記憶に新しい。

JR函館本線の踏切が高架化される以前、SLが黒煙を吐いて力強く走る姿と、

木橋の2代目忠別橋(写真/旭川市中央図書館所蔵)



木橋の忠別橋とが妙にマッチングしていた風景を思い起す人も多い。ところで、旭川の地名の由来である。「旭川」が文献に現れるのは明治23年9月20日付けの道庁令に「旭川村」の開村告示に登場したのが最初だ。元来、上川の中

にあった忠別太の「忠別」を語源としている。忠別川はアイヌ語で「チユク・ペツ」(日・川)であると、その「日」を「旭」に置き換えて「旭川」と意識したとされてきたが、その後にも唱えられ、いまだに諸説があつて一定していない。その忠別川も、いまは見事な河川公園となっている河川敷に変わっているが、かつては橋のたもとから上流に向かった河川敷内に通称「サムライ部落」、正しくは「厚生部落」と呼称されていた集落があつたことを記憶している人も少なくない。

(参考文献は関根正次著「旭川の橋」など)

旭川ラーメンが

『北海道遺産』のひとつに

とはいっても、『北海道遺産』(別表参照)として選定された「北海道ラーメン」のひとつとしてですが、選定理由「ラーメンの起源については諸説ありますが、戦後急速に道民の食生活の中に定着し、寒冷な気候から、コクのある濃い味をベースに、北海道の代表的な食文化として発展しました。全国に先駆けて北海道のラーメンが脚光を浴び、ご当地ラーメンブームの火付け役になったことも評価されます。

期待される効果「ラーメンは、

北海道の観光資産としても欠かせない存在です。「函館・塩」「札幌・みそ」「旭川・しょうゆ」がすでに有名ですが、道内の各地域で、素材に様々な工夫を凝らし、「こだわりの味」を追求する店が数多く出現しています。こうした活発な動きが雑誌やテレビなどのメディアを通じて広く知られ、新たな地域作りへとつながっていくことを期待します。

『北海道遺産』とは何でしょう。北海道遺産構想推進協議会が2年をかけ、次の世代へ大切に引き継ぎたい北海道の宝物を道民参加で選んだもので、決して過去の遺産ではなく、北海道の未来を想像していく資産とされています。

北海道遺産(第1回選定分)

- 川湖(遺跡)
- 石摩(文庫)
- 狩周(文庫)
- 原花(文庫)
- 湿原(文庫)
- 多布(文庫)
- 力(文庫)
- ツ極(文庫)
- 湾(文庫)
- 京(文庫)
- 根(文庫)
- 中(文庫)
- ア(文庫)
- 内(文庫)
- 跡(文庫)
- 上(文庫)
- 福(文庫)
- 姥(文庫)
- ア(文庫)
- 増(文庫)
- 毛(文庫)
- の(文庫)
- 歴(文庫)
- 史的(文庫)
- 建(文庫)
- 物(文庫)
- 群(文庫)
- 街(文庫)
- 道(文庫)
- 田(文庫)
- 家(文庫)
- 岡(文庫)
- 田(文庫)
- 留(文庫)
- 萌(文庫)
- 二(文庫)
- シ(文庫)
- ン(文庫)
- 街(文庫)
- 道(文庫)
- 大(文庫)
- 学(文庫)
- 第(文庫)
- 2(文庫)
- 農(文庫)
- 場(文庫)
- 地(文庫)
- 域(文庫)
- に(文庫)
- 残(文庫)
- る(文庫)
- 炭(文庫)
- 鉱(文庫)
- 連(文庫)
- 空(文庫)
- 施(文庫)
- 設(文庫)
- 旧(文庫)
- 国(文庫)
- 鉄(文庫)
- 士(文庫)
- 幌(文庫)
- 線(文庫)
- コン(文庫)
- クリ(文庫)
- 路(文庫)
- 面(文庫)
- 車(文庫)
- 山(文庫)
- み(文庫)
- 北(文庫)
- と(文庫)
- 防(文庫)
- 波(文庫)
- 堤(文庫)
- 函(文庫)
- 館(文庫)
- 小(文庫)
- 樽(文庫)
- 内(文庫)
- 北(文庫)
- 文(文庫)
- 和(文庫)
- 新(文庫)
- 山(文庫)
- 国(文庫)
- 際(文庫)
- 雪(文庫)
- 合(文庫)
- 戦(文庫)
- 大(文庫)
- 会(文庫)
- 昭(文庫)
- 和(文庫)
- 新(文庫)
- 山(文庫)
- 国(文庫)
- 際(文庫)
- 雪(文庫)
- 合(文庫)
- 戦(文庫)
- 大(文庫)
- 会(文庫)
- 北(文庫)
- 海(文庫)
- 道(文庫)
- ラ(文庫)
- ー(文庫)
- メン(文庫)

旭川市のホームページを見ました

旭川市のホームページがあると聞いて見てみました。旭川市の概要・まちづくり構想から、観光・イベント情報など利用しやすいものも豊富。広報紙「こうほう旭川市民」も見られますので、故郷・



旭川の今の様子が、家のパソコンで居ながらにわかりました。これは使うと便利です。(引地)

<http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/>

旭・川・た・よ・り

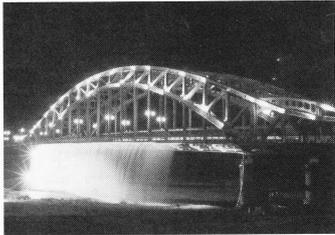


「旭橋」が建設70周年

旭川のシンボルとして親しまれている旭橋(全長226m)が平成14年11月に建設70周年を迎え、記念の各種イベントが行われた。

8月には、旭橋の思い出を次の世代に語り継いで行こうと「旭橋を語るつどい」が、9月には、市民生活と旭橋の歴史を振り返る「旭橋を語る写真展」を開催。

さらに11月には、午後7時頃から放水とライトアップが行われ、橋に沿ったパイプから川の水を流すように放出。橋げたの照明が水のカーテンを緑や金色に照らし、市民は水と光の競演を楽しんだ。



旭川市障害者福祉センター「おびった」オープン

障害者の方々の自立と社会参加や健全者との交流を推進する拠点施設として、旭川市障害者福祉センター「おびった」(愛称)が宮前東地区に平成14年6月末にオープンした。

同施設は、整備が進められている「北彩都あさひかわ」(旭川駅周辺開発事業)における旭川市の最初の施設で、建設費(用地費含む)約30億円、延床面積5692㎡の4階建て、水浴訓練室・機能回復訓練室・体育館・会議研修室・陶芸室などがある。また、盲導鈴など障害者の方々の使いやすさに配慮した設備も各所に備えられている。

利用は障害者の方が優先されるが、一般の方も利用できる。 ※「おびった」とは、アイヌ語で「みんな」という意味。市民にも親しみのもてる愛称を公募し、明るく、響きが良く、印象に残る言葉として選ばれた。



ブルーミントン市・ノーマル市との姉妹都市提携40周年

旭川市とブルーミントン市・ノーマル市(アメリカ・イリノイ州)の姉妹都市提携40周年を記念して、菅原旭川市長を団長に一般市民を含む総勢26名の公式訪問団が7月

24~30日の日程で両市を訪問した。両市とは姉妹都市提携以来、高校生の相互交換留学、公式訪問団の相互派遣のほか医療・教育・文化・スポーツなど幅広い交流を重ねており、今回は旭川からの10回目の公式訪問となる。

今回の訪問では、歓迎会、ノーマル市民手づくりの日本庭園の開園式、農業まつりの他、日本舞踊や陶芸の技の披露、現地の人達も参加した北海盆踊りなどで交流を深めた。3市の交流は、市のみならず日本とアメリカの友好と発展につながる意義ある訪問となった。



旭川市長(左)とブルーミントン市長(右)らによる記念撮影。

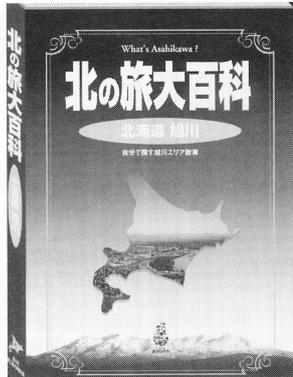
新しい観光パンフレット「北の旅大百科」が完成

旭川の春・夏・秋・冬を美しい風景写真とともに紹介する観光パンフレット「北の旅大百科」が旭川市商工観光部観光課から新たに発行された。

旭川や道北周辺を紹介した各種観光パンフレットのひとつで、24

ページ、オールカラー。周辺の観光情報を充実するとともに、大判の写真も豊富に使用して視覚からも拠点都市旭川の魅力伝えるものとなっている。

同パンフレットをご希望の方は旭川市東京事務所まで、無料。



「第76回全日本学生スキー選手権大会」が旭川で開催

東京旭川会の八木前会長が副会長や理事を務めていた全日本スキー連盟・全日本学生スキー連盟などが主催・後援する「第76回全日本学生スキー選手権大会」が旭川で開催される。

この大会は通称インカレと呼ばれる、参加校約200校、選手役員約2000名の大きな大会で、冬季オリンピックなどに数多くの選手を輩出している歴史と伝統ある大会。

今大会は旭川市では初めての開催となり、競技は平成15年1月11日~16日の日程で、アルペン・クロスカントリー・ジャンプ・コンバインド(複合)の4種目が行われる。

旭川市東京事務所が移転します

旭川市東京事務所が平成15年2月1日から「日本都市センター会館」へ移転します。近くにお越しの際は気軽に立ち寄りください。なお、電話番号・FAX番号の変更はありません。

旭川市東京事務所住所
〒102-0093

東京都千代田区平河町2-4-1
日本都市センター会館11階
電話 03-3265-7855
FAX 03-5211-8100



編集後記

今の60歳以上の方は大変お元気です。とはいっても、そのシェア77%は、会の発展の為に健全とはいえません。諸先輩がもつと若手をと望むのも肯けます。では、それをどう実現させるのか。組織的に若手会員を増やし、郷土の先輩と和やかに交流できるような仕組み作りが、いまの幹事に望まれていると思います。(引地)